

創立當時の唱歌

氏原 銀子
膳 眞規子

育を盛にして幼稚園教育を基礎にして小學校が連絡して行き度いと望むのである。幼稚園と小學校の連絡のよしあしの研究もいろいろ承つた。シカゴでも連絡を計つてると聞いてゐる。大事なことである。どうしてもずつと連絡をとつて行くことが大事である。

まだ一つ遺憾に思ふことは横濱の小學校は殆んど二部教授、午前八時に尋一が登校すると十一時に退け、半日遊ぶので幼稚園より悪い。如何に躰けても之の間に悪い友達と接觸する、朱に交れば赤くなつてしまふ。も少し何とか私會事業協會が八釜しく唱導せられるがそれが此の半日間を何とかしてもらい度い。

もつと幼稚園を盛にして、幼稚園教育は教育の基であると文部省當りでも非常にやかましく言つて居られるから、これをお願ひしたいと御相談かたゞ此處に上つた次第である。

私は明治四十一年に幼稚園を引きまして以來廿九年間何も幼稚園の事を研究せずして今日に至つたのでこゝにお話申上げるにしても、參考になることは少しもございませんで申し譯ないことですからで古くさい人間は古くさい事だけしか申されませんが創立當時の唱歌について一寸お話申上げたいと思ひます。

明治九年今より五十三年前官立幼稚園として日本に始めて東京女子師範學校附屬としてこの幼稚園が建てられました。皆様の多くは未だ生れぬ古い時の事でその當時は保育につかふ唱歌が全くない。そこで豊田フク、近藤ハナの兩氏が苦心して

歌詞を作りましたが、未だ音楽知識の發達して居ない時代のため、作曲する人がありません。其處で二人は考へた末、宮内省の式部寮、宮中の奏樂を司どられる伶人の御方にお頼みになつてこゝで始めて作曲されました。

この歌について古い古をしなければなりません。昔から歴代の皇室に仕へ、明治天皇の遷都の時、京都から隨つて御出でになつた由緒あるお家柄で笙の家、七りきの家等それ〴〵の家の樂派を代々の方が專攻されて御用をつとめていらつしやるのですが、この御方々の三人の伶人が作曲された歌を持つていらしつて教授下さいました。調子笛で調べられて、手拍子で口移しに教はります。それを保母から幼児に教へました。樂器は何れも日本で出来ませぬ時ですから矢張り、只手拍子、口移しで、苦心した唱歌でありました。その後、豊田近藤の兩氏は續々と歌詞を作られる、古今集から

もどし〴〵選んで作曲を願つて百以上になりました。幼稚園のみならず、小學校、本校でも歌ふやうになりました。

明治十年音楽學校が出来て小學校唱歌集が現れる迄この歌を用ひて居りました。以來この唱歌は廢されて捨て、顧みられなくなつたものです。今から老姉妹でその昔の唱歌を御披露いたしますが唱歌は調子がゆるやかです、曲譜の配列が四分の一、八分の一、全音譜ですから。旋律はずつと高音から低音へ、餘程移りが大きい様です。幼兒の聲帯の上からいふとムリがあつたやうです。緩やかだつた所から優雅に聞えます。歌詞は稚言が多くて子供には分りにくい、歌つても十分意味が分りませぬが、旋律の優美は快感を以てよろこんだものです。何でもものゝ初めには不備があります。

春の歌

百鳥の立ち歸り來て諸共に鳴るがさま〴〵鳴き

交す聲面白し大空の色もうらゝに曇りなき、光
あまねし波風の治まれる代の光あまねし

夏の歌

さつき立つ氣配もしるきわが宿の花橘はほころ
びけり庭もかほりて

秋の歌

露霜に梢は色に出でにけり衣の袖を吹く風も身
に泌む虫の聲すなり驚かれけり年月は半ばをと
しも杉のむら立

冬の歌

白雪の山も野原も埋む時、室の戸閉ぢて 静か
にもさゆる夜寒むを我は防かん

山里や草も荳らずに萱を刈る

紅

綠

末枯や地藏の道の明らかに

青

鏡

